

# Win-Win の関係が生み出す確かな信頼を大切に 人のため、地域社会のために貢献し、 信頼される会社を目指して尽力し続ける



## 有限会社 敬愛社

鹿児島県鹿屋市串良町有里 2476 番地 10

不動産業と太陽光発電事業を手掛け、今年には設立 20 周年を迎えた『敬愛社』。岡留社長は、関わるすべての人との Win-Win の関係を大切にきた経営で信頼を築いてきたという。本日は、タレントの黒田アーサー氏が同社を訪問し、これまでの軌跡を伺った。

代表取締役  
不動産取引士  
ファイナンシャルプランナー  
**岡留 利秋**



interviewer  
**黒田 アーサー**



——『敬愛社』さんは 20 周年を迎えられたとのこと、おめでとうございます！

ありがとうございます。改めて 20 年という年月を振り返ると、感慨深いものがありますね。現在の当社は不動産業と太陽光発電事業を手掛けていますが、実は、もともと農業と介護事業をしようと立ち上げた会社だったんです。実家が農業を営んでおり、私自身、勤め人をしながらも兼業農家として長年農業に携わっておりました。学業修了後に『農業協同組合』での勤務を経て、『風呂井会計事務所』に転職したのですが、それも、実家が畜産業に本格的に乗り出すこととなり、経理面が重要になると考えたためでした。

——介護事業のほうは、何故始めたいと考えられていたのでしょうか。

私が 24 歳の時に父が脳梗塞で倒れ、介護施設にお世話になっておりました。自分で施設を立ち上げて父の面倒を見たいと思ったんです。それで、会計事務所に勤めながら 1999 年に『敬愛社』を設立（社名：敬天愛人）。ヘルパー資格も取り、準備を進めていたのですが、新ゴールドプランに枠がなくて許可がおりず、介護事業は断念することになりました。

——それは残念でしたね。では、それから不動産業と太陽光発電事業に？

ええ。2000 年にヘルパー資格を取る際にお世話になった介護業界の方から、「鹿屋市に新たな事務所を建てたい」というお話を伺い、私が事務所を建ててお貸しするようになったんです。さらに同年に

は、よく通っていた飲食店が、河川工事の影響で閉店を余儀なくされてしまったことから、そのお店が入れるようにと飲食ビル「iビル」も建てました。そうして本格的に不動産業をスタートし、それからはアパートやマンション、貸家のほか、コンビニエンスストアや大手量販店などの貸店舗も増やしていったんです。2010 年には、20 年間お世話になった会計事務所を退社し、当社の経営に集中するように。2013 年には、太陽光発電施設の建設に着手し、不動産業と太陽光発電事業の 2 本柱という現在の形に落ち着きました。

——紆余曲折ありながらも、事業を育ててこられたと。ここまで続けてこられた要因は何でしょうか。

Win-Win の関係を大切にしてきたことだと思います。実は、私は不動産を仲介する際に仲介手数料をいただいたことが殆どないんです。その代わりに、賃貸物件を紹介してもらい、条件が合えば購入します。賃貸収入があればそれでよしと考えてきました。逆にこちらが仲介手数料をお支払いする場合は、こちらの条件に合うまで交渉して下さった時には、通常の手数料の他に謝礼もお支払いします。交渉していただいたことへのお礼ですね。いくら自分が得をしても、相手が損をすることはありません。ですから私は、どちらかが損をするような取引はせず、「また機会を改めて、お互いにとって良い時に取引をしましょう」とお伝えします。また、マンションを建てるにあたって

でも、入居者、建設会社、管理会社、施工主、皆にとって良くなるようにしたい。そんな思いを込めて、2005 年に「Win-Win マンション」を建てて以降、当社が手掛けたマンションやソーラーはすべて、「Win-Win」と名付けているんですよ。

——自社だけではなく、関わるすべての人の利益を大切にする。そんな姿勢に信頼が集まっているのでしょうか。最後に、今後についてお聞かせ下さい。

まずは、20 周年を機にお世話になった方々へ改めて感謝を伝えたいです。実は、以前勤めていた『風呂井会計事務所』には、今も当社の決算をお願いしています。お世話になった方には、必ず恩をお返ししたいんです。それは、地域社会に対しても同様ですね。しっかりと利益を上げ、納税をしていくことで、この地域のお役に立つ存在であり続けたいです。

(2019 年 3 月取材)



「岡留社長のご子息は今年不動産学部を卒業し、不動産会社に就職が決まったそうです。そんなご子息の存在は、社長にとって心強いことでしょう。今後も事業を守り継ぎ、30 年 40 年と続く会社となることを応援しています！」 黒田 アーサー・談